六家集

拾玉四

拾玉集卷第四

詠百首和歌

左南海漁父　　右北山樵客

春十又首

[illegible]

右一首按本在[illegible]十又首[illegible]也

[illegible]

夏十首

秋十首

お 人ゆぬ萩乃戸風ゆかきて山ふけり秋の夕ぐれ

貞 萩の戸を流て尾上ふ松風ひとつ哀れそふる

貞 涼しさハ秋ハより野ふ撫か鶉の床ふ袖ぬらしつゝ

絲 あはれ也尾花の下ふ吹こゑて風ハ波よす山高ハ

お 桁にまてさぬる乃声のさそひきて哀しつ庵乃まろ

貞 月ハ秋とおもひふけりし宿ふ今更称ふおくるれゆる

お 露そくそのかをあらしふあれて夕乃秋乃夢や夕ぐれ

絲 秋と秋と知りひさかのろにいふふく鹿の鳴の声

貞 ふ染ものゝろ袖の風清て簾ふ息きさむ秋の夕ぐれ

お 秋乃夜のふかく鳴り虫の露すも庵出中の夕ぐれ

お 旅乃世の虫の声よそよらのぬれしけふ秋ま君かな

秋の海のみちくるゝそ三田山ふ我ぶ古なり 桁 かりける

冬十首

貞 河風くるゝ里乃くもの紅葉を散らして乃水のまさり

絲 やよ忘れりの音ハ袖のかゝりやせむ木の葉散らの空を眺めし

お 神無月山風よふ紅葉の音をとめてさそふ風のしるハ

貞 庵の松葉の外をとふりて月ふひ寒さむ夜けし

お 月ゆあさふかけてふる谷の松ふ落て冬きぬるけり

絲 しぐれされて雪ふつもりのしられや夜松むれ添なりて

お 冬乃秋月けさえてもはらして尾上乃雪ま寒やはんけん

貞 ふる雪ふかりの河原をふふりけむ氷の竹より打ほ

お めぐりしおくの年の暮の忘るおまいこ嬉のさるも松や立春

お 了せを迎ゆるふ年ゆくふれぬる冬のあけの

雑十五首

持 思ひの外なるへくしも来まてそ秋しめしよ待えなき
持 さわりしこのあそくしられさか月さえしも袖のあき風そふらん
負 ゆふくれはさわりしてんあかり露乃関よ吹おく山風ふけの秋
負 影浅きあれのれをは風よの人ふかきかけれそ知られおもらん
持 いりまかせん思ひの山をたえかなてもへしみられよ又雨よりひかり
みなかみさりよしもひさへくしたのもしき秋よりはて露かなさえ
負 尺紙ゆめ人おもふく猶の結ふ志のさの春の房の雨の
持 ふしきやさしまゆめの海よりひさすしつちりかなしいはぬ（このまよ）
負 いかにしてよ岡よなかの関を待ち袖をもえおもわりかりひけり
志のそらふかりれ月のつれなきと契り人の今の便へおもくは
しらぬしたえそのあきまくわりのやすからうし山の嵐や雁鳴楽
勝 むつさ乃結ふ契りと旅つらく夕乃月よ房なきさりける

負 鶏鳴の一夜のなかしくとも一夜らくもそれ知らぬ宿れ
勝 ゆふ袖をもゆよゆれあいをとて旅の涙よ雨とふむとも
持 しかあらへて雨よりやもみあん旅てくつまくかの尾
持 人をまかのあまくゆふ成の今聞とつくあすも涙のそて

羇旅十首

右十六首在之一首多

負 雨それぬさいの世くさよ月私つく転来つきさ浮きしのえ
持 梶雨くまさ結ふ私くかしうけん吹井たね晴のえ
記 私くとし思ひ出る日に絶まえ代はさくり私は托つりかは
勝 人くわくさえ私よ山の嵐としよ雨の山と志わりるらん
勝 旅つう見わり月のゆ末よ契りひと忍よらの山そう
勝 私ありの世をてよ見てよぬさくらけれいく契まりぬとあえ下伏
勝 草の枕間をきあくぬ旅宿人は野の根まれきとおしして

[illegible]

山家十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷十八首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百番　左勝

[illegible]

述懷　左勝

[illegible]

[illegible]

夫和謌者非鼓舵鼓棹之事乎非採薪採芝之
事只造心四序敘思於萬里之業也況今南
海有一漢夫北山有一樵客居雖隔山海契於
倚芝蘭因茲隨分綴百番之篇什其終得
一首之贈答丘依風波月浦之冷表以心有
之耿耿是則内作行吉之靈私憤人丸
森然是則内作行吉之靈私憤人丸
之遺塵之者也若有披閲之客宜交優
苟之詞而已

建久五年仲秋記之

詠百首和哥

北山樵客

立春

いとせんとてとしのはじめにかへりてはるのたちぬるこよひかな

[illegible]

梅

[illegible]

花

[illegible]

鶯

[illegible]

新秋の物の兄はしる中やしらひ秋の心を

又月夜

こよ世ゆへにわぬ心の雲すぬやゆるまぬ月夜に霞
うきすまふうくてきまうくてみかり夜の雨の海の月に
山さまきかしまてすまの身わいるうてみかり夜は
中くま秋くりぬ月けまなくつまいみかり夜の夕
山さまの雲こ絵ほりしわきしてしへのみかり南の比

月

なあつらめぬす毎て入めれて月よわか脊とまつ子
思ひのあ人はる家やとちきんは袖ゆみをやとる月け
御間山月の光よあ朝ゆひてをとちなのめの高なを
しれま政のかく家月の承こまひあてやあまつ鶯

錦分んのいらや時ぬらんをよやとうる月とあかめて
秋のよまわうてくれりきわに風のあ萩の上を
梅えへしもとのゆへいそくうりり芝てわきは也けれ
ゆうの空むうさくさそれりのへとは向のらは恋き虫れ
のへさむ今離い帯への中あれく常の夕あく夫他をみるれ
席よ出むくれて衣くをふの人ま萩をそよりれりさと見れ

秋露

しうへたみひのきみちれるをおうちみきんやうれなを
思われゆ露ちわらく庭の夕く秋ひとりのの山田付り
大井川あさみかれの身みちらくやあえのこせる帰らそれ
常のひうあきしとさられぬかりみ立れりより雪方席の光

[illegible]

雪

[illegible]

歳暮

[illegible]

[illegible]

初恋

[illegible]

恋

[illegible]

ひとりのみまつらむ人に結ひしみさしそうひなにおもはれまし

旅宿逢恋

宿とふもかりそめ人とちきりてもさやかにとまる別なりけれ

あくるまもしらぬ旦の夢はこしはしまつあかつき袖や抑へて涙し

し旅寝の仮のまくらをかはしつゝわかるゝ恋そ結ひけりな

たのむのやとりの宿はあはれにもしはしは人の面影はなし

なれきぬと思ふ手枕おもかけや袖は涙に秋のころもん

惜別恋

ひとりのこゝろにしのふ秋の夜をなかきとおもへは袖とぬれて

わかれつるよそのあけぬるも人もあふひさしれわか袖

暁かた月ををしみて二声とまやかにもさくとおもひかね

ともおもふ別のねをそとめて結ふらん日のよるこそ

いつしかとおもふ手枕別れ路のしはしも今はまたうちとけ

逢不逢恋

きのふ逢ふて今日またあはぬ恨やは人の思の闇に迷はん

たのみしも夢のうつゝのうつり香に我のみ残る袖そ恋しき

結ひてもとめてもうつりの月影をやはりつけて袖の涙

なれこしのかりそめ人は別しの後別とは

いつまて床の枕秋しられて人を待つ秋の夕くれ

祝

君か代は松のみとりにあらはれて千ひろの海の底

よろつ代もかはらぬ君か代のちとせを結ふらん

いつの山かけの宮もあふきてわかるゝ君か御代

君か代の久しきことのはためしにはひとの世まての松風

君か代ハ清たへてか閑まちかゝらて富士の風も稲ほにほひて

旅

見そめつる人旅の空の旅の空の旅のしつさかな

ゆめうつゝあまの上なつかしき山のかりまくらかな

あすはやいくたひとつけらんともかくも山のみちの白雲

くもの山路をて月もあはれにあはれしてあまるまて旅そよる

月もらぬ旅の枕のうへにねぬ夜ともなくまつるかな

述懐

はせさしともおもふゆへこそやましき心をもちてよにふる世

そら川のおもひ世のなかみにそめなりてふりまぬしまは日に絶へ

しらなしさゝるむかし昔よりもの世にまれなるなりの

流れし世の新たなるらを々かなる長活一流れの色よきよ

人はたゝ世の中のことをおもふてそ世の中のことそともなかなか

神祇

みをもてや千早振るは神のいくれ神代のまもり

世の中よそむきはてゝは水の心のまゝにすむとそのまゝ

おもひやか我の川波にぬれまして神のおもひのまゝ

とおもひくりかへのうけふかねは御あらさはうらか

かたうちのもおとなさとまたなへしは世の中御恩

釈教

仏部

とはるにまよひしかも月をかくさまたれは一きくのみ

蓮花歌

かゝれおもひのめくりわかきにし蓮のまに開て

寶歌

[illegible]

金剛歌

[illegible]

褐麻歌

[illegible]

[illegible]

偽歌入道見付百首奥和

[illegible]

義久三年十二月撰作

[illegible]

詠百首和歌

春十六首

今日不知誰討會　春風春水一時來

[illegible]

春風先發苑中梅　櫻杏桃李次第開

[illegible]

白片落梅浮澗水

[illegible]

黄梢新柳出城墟

[illegible]

春來無伴雨遊少

[illegible]

[illegible]

遊處花皆好　隨年自衰

遥見人家花便入　不論貴賤与親疎

花不志歸因美景

[illegible]

歳花不語空辞樹　流水無心自入池

花落城中地　春深江上天

[illegible]

肖燈芸懐深夜月　踏花同惜少年春

[illegible]

歳時春日少　世界苦人多

留春々不留　春海人寂寞

[illegible]

肌風々不定　風起花蕭索

[illegible]

夏十首

微風吹被衣　不寒猶忍樊

[illegible]

殘雪素思盡　新葉陰深多

[illegible]

重陽

[illegible]

池晩蓮芳謝　　寂秋竹意深

[illegible]

風生竹夜定間外　月照雲時臺上行

[illegible]

[illegible]

不是禄房無樂利　但能心靜即仙源

[illegible]

暑月貧家何不有　客来唯煩小窓風

[illegible]

蕭颯風雨天　　蟬聲暮啾々

[illegible]

夏外山定風　　枕席如涼秋

[illegible]

秋十五首

夜來風雨後　　秋氣飄飄新

[illegible]

園扇先辞手　　生衣不著身

[illegible]

大屋四時心惣苦　　就中斷腸是秋天

[illegible]

八月九月正長夜　千聲万色無二時
[illegible]
相思夕上松聲立　螢思蟬声滿耳秋
螢[illegible]
遲々鐘漏初長夜　耿々星河欲曙天
[illegible]
殘影燈前壁　斜光月穿簾
秋月[illegible]
黄芽園上秋日晩　苦竹嶺下寒月低
[illegible]
月照[illegible]樹外
秋月[illegible]
螢飛廊宇間

磯日暮山青蒼々　浸天秋水白茫々
秋月[illegible]
寒鴉飛急芝燒尽　隣鷄鳴遲知夜永
[illegible]
并頭更有蕭條物　老菊裏蘭雨三叢
秋月[illegible]
不堪[illegible]青苔地　又是涼風苔雨天
[illegible]
葉聲落如雨
[illegible]
月色白似雪
万物秋霜能懷色
秋[illegible]

冬十首

十月江南天氣好　可憐冬景似春花
[illegible]

寒流節月澄如境
月色[illegible]月照[illegible]

策々窓戸前
桂乃[illegible]

又聞新雪下
[illegible]

燈火欲消燒欲盡　夜長相對百憂生
消[illegible]

唯有數叢菊
白菊乃[illegible]

新開籬落間
[illegible]

南窓肖燈盞
風姿晴紛々

[illegible]

寒原村夜　殘雁雪中聲
[illegible]

可在海門東
[illegible]

言夜過南又欲春
[illegible]

書史一燈燈一盞　白頭夜礼佛名強
[illegible]

逐日首
夜深方獨外　誰為拭塵牀
[illegible]

夕殿飛螢思消魂　孤燈挑盡未成眠
君恩如流不復返　昭陽夜月愁金鎖

行宮見月傷心色
雨聞鈴腸斷聲

秋雨聞鈴斷腸色
春來見月傷心色

舊枕古衾誰与共
山家秋夜

後今便是家山月　試問清光知不知
秋月春花何日了　往來人老春花新
始知天造空閑境　不為忙人留主人

於戸外　我のみそ行山路を世と切へ下る雨の
菜省花時錦帳下　亀山雨夜草菴中
第五代序文の後とあり山家秋夜
人間榮耀因緣淺　林下幽閑氣味深
出門秋月春花好　何時辞塵網　世地來掩扉
しつかなる住へき山乃家にしてこの我心哉
舊里　月懐旧の首
前庭後苑傷心中　只是春風秋月知
あり世代前代のふるの秋夜の月春花
蓬莱黄泉地　日暮旅風多
の思ひ出の夕ゆくらめ　苦しき夜の雨

栖柳作高林　種桃成老樹
閑日一思舊　舊遊如目前
黄壤誰知我白頭獨怪君唯將老年成一離故人交
閑居十首
但有雙松當砌下　更無一事到心中
山林太寂寞朝廟苦喧煩唯茲群陰内置靜得當
偶得幽閑境遂忘塵俗心始知志限者不必在山林
更無俗物當人眼　但有泉聲繞我心
晝日坐復臥不離一室中中心本無繫亦与出門同
外煩世間比内脫途中涿進不猒朝市退不忘人寂
除閑竹間扉靜掃松下地徊肅晚風并何人知此意
類然環堵容蘿蕙為巾帶自得此道來似窮愁甚
苦吟寄秋山多思忘日月
心是即為富仍閑仍當貴富貴在世中何必居高位

看雪尋花就風月　洛陽城裏七年閑

述懷十首

置心世事外　無憂心無垢

欲留年少得富貴　富貴不來年少去

心去行行不復返　行行不復返

春去有來日　我老無少時

我有一言君記取　世間自取苦人多

後居人生都是夢　夢中歡笑亦復然

生死尚復然　其餘安足論

此心一死繫　偕亡如虛舟

委形老少外　忘懷死生間

我若未忘世　雖閑心亦均　世若未忘我　雖退身難

蔽我今異是　身世交相忘

人生死生何必寄天地間心有千載憂身無一日閑

無常十首

親愛日零落　存者仍別離
我身亦如此　今日未知期
逝者不重迴　存者難久留
世事如夢幻　人命若露泡
往夏聊託都　似憂舊避暑
初秋已苦寒　秋風滿故園
泉下故人多　原上新墳委
一朝身歸土　城中舊宅有
何人苦行士　誰能不長生

生去死來都是幻　幻人衣樂繫何情
いきさるあるはかなくてゆくへもしらぬ花みるあるはかなくて
早世身如風裏燈　暮年髮作鏡中絲
はやくよはかぜのうちのともしびとくれがたのかがみにうつるしらいと
幻世春來夜　浮生水上漚
まぼろしのよはるのきたるよ　うきよはみなのうへのあわ
耳裏數聞故人死　眼前唯見少年多
みみのうちにかぞへてきくこのかたのしにしのひと　まなこのまへにただみるものはわかきたち
古墓何代人不知　姓与名化作道傍土年年春草生
ふるはかいつのよのひとかしらず　せとなとはなりてみちのほとりのつちとなりて　としとしにはるくさはおひぬ
法門入首
追想當時事何殊昨夜中自我学心法万源空室

[illegible]

迴念發弘願之世見在身但受之去報不結業因

[illegible]

誓以智惠水　永洗煩惱垢

[illegible]

由來生老死三病長相隨除却无生人間无苦惱

[illegible]

此身何是色万劫煩惱根此身何是肱一聚虛空塵

[illegible]

唐國やとこれ風乃吹くれ[illegible]

樂天者文珠之化身矣當和坡漢字和哥者

神國之風俗也須述此早懷因茲忽祝百々

之玉章愁綴百首之拙什法樂是北野社所

願彼南無之誠定難今生世俗文字之業

爲當來讃佛法論之緣者乎

述頭之一住再住以詠密之淺略亦秘旨和讃

百首慮法樂千日吉兆之二世於一時而已

光僧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いるもん人ときこゆるなどよ
りもやうのいとあはれなるさまにて
ふるさめのうち降るに月いとあはれなる時に
ものもとめまかなるものみていくよりはるかに
あるべき人の気色ものかなるはいと
様のものとおもふるものの
ものいとあはれなるつゆかけるとおもふ
物のもとのあるに秋の末なれば
とりわけいとあはれなるのみ月をもて
はやしもてなしいとうるはしくなれむとの
世中の人のものとせるものをにくきに
ものゆくさまにて秋まで
ものゆけんやとあるべきの
ものの

うちまもりつゝいかの和歌にてはいとあ
はれなるものの
いとあはれなるさまにて
口ずさびて
いかの人とあるべきの
ものの
ものとして
るものとしてもの
ふるしれ人のあるとう世
口のくちとしてもの
口ずさびてとみるべきの
ものとしてとみるべきの
ものとしていとあはれ
いとしいとのの

世間のひとびとのうち紙にあらはしてみせうとて人々
あるいは紙にかきつけたるものをいとさいはひとて
人々生れたる所のれいをかきあつめるすいかれ
こゝ所にてまつりをうけ用ひられつゝやいとんをつひや
とゆるしみちをすまるものとをくやうとうの人の
人々に恢をとゝいまきんにれとするとんにわのかるか
ゆるしをやゆるしたまはれとゆるしあるべくの人のかい
ワの方にいつまでもとゝまれるいのをうてれく世をはんて
おちこゝ角をみてとゝおもてをとゝぬさといくらくの
ゆるしをいかるべき廣れ紙をとくと家をもすゝ山をあれも
しかれ紙いとゝのをみてきれ初をえをみあるるこゝ

芳をみれ安いこゝろ家をよく紙にのこしてみるそひるまき
こゝろをもやをたてをよの人のあるをあてをおるこゝろおくこゝ
神をみをうけをさてをもをんをはをれをはをけをこゝをあをへを
紙をを紙ををくをもをもをそのをを世ををつをかをこゝをめをい
いををてをこゝの新をこゝをのをこゝ紙をあをれををを紙をつをき
護雅をの央を所ををき廣を所を海をこゝをををを紙をををを
海い世をを海をひをすをこゝ六のをををををを相成紙
うををれををこゝの紙をを紙をを紙字紙をのをひを
をのをこゝを芳雅の紙ををををををををををををををを
のひをこゝをのりをあをこゝをれををこゝをこゝをひをこゝをこゝをを
をりをこゝをみをこゝをこゝをこゝをこゝをこゝをこゝを
やをこゝをこゝをこゝをこゝをこゝをこゝを海をこゝをこゝを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長谷の或る寺の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]百首をよみて
[illegible]
三度沼山寺心於山王數年與教容坊
於教門今生緣源來世能引導
于時建暦二年壬申秋九月草〻老僧記

切初在梵王切未屬尺尊漢家者孔子我朝者
神宮三國〻言音雖異片刀〻和字構他
者歌道理之一捻在中心始終〻一念聲下
愚黍受一諾神〻苗裔懇彰百首心於風情
而已

神祇　月　風　雨　暁
朝　野　海　池　川　夜
田　島　松　夕
山　猿　垂　祝　山家
草　花　杜　述懐　釈教
右各寄四季合百首也

詠百首和謌

神祇　良山光僧慈一

[illegible]

年ふるまつの木のもとにたちよりて
はるかに山つゝき雲はるゝまなくて
いとゝ水やまさりてみなぎりつゝ
りうせんはるかに乃えの紙をとりて筆をとる人

月

むかし人月やあらぬとてはるの
夜乃月はあの月かとうるさきかとて
涙のこぼれるものの秋はかの月
我ひとりかとうるさきのとうるさもかはて
をれ夜の月を物とかたるとあるとも

風

ふきあるる人の袂をとへ花ゆゑ
いとゝ春はいかゝ

いとゝ春はいかゝ
ふるとて花ちりて春はいかゝ
ふるとて山つゝき
ふるとて山はかすみ
ふるとて春はいかゝ
ふるとて秋はいかゝ
ふるとて時はいかゝ
ふるとて秋はいかゝ

雨

春雨乃ふるまにまにとりもつ
雨のしたにのこれる
雨のこゑとこゑ
雨のこゑとこゑ
雨のこゑとこゑ
雨のこゑとこゑ
雨のこゑとこゑ
雨のこゑとこゑ

[illegible]

暁

[illegible]

朝

[illegible]

野

[illegible]

海

[illegible]

[illegible]

池

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河

[illegible]

田

[illegible]

[illegible]

雪

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

夕

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

山

[illegible]

[illegible]

旅

[illegible]

恋

[illegible]

[illegible]

祝

[illegible]

[illegible]

山家

[illegible]

草

[illegible]

花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌

いとせんそのあるかぎりの鶴の枝をれ給へ

[illegible]

三世仏法三宝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂大明神者本地難測觀真俗之道理於心至迹惟新訪利生之神感於冥和謌者我朝之風俗也吟詠者雅意之所作也今染二諦之色於意識忽著三業之悟於法樂任言又任言此聲是觀音實語亦實語此意者又神慮如此之早懐豈背干聖意故介云

詠百首和歌

春二十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜 三十首 考日 二首多

二条院讃岐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内取百句為百題其詞云

詠百首和歌

序品

如是我聞

[illegible]

入於涅山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

礼佛而退

上慢の諸比丘千人佛に背き
その法はいまいてかなしえぬとそうりとせんへ

出現於世

今天人師の法を説きたまふ

聞佛知見

世尊は佛の知見を説きたまふ

唯有一乘法

いつれのときにか妙法蓮華を

如我昔所願

今日世尊は昔の願のごとく

常自寂滅相

常に自寂滅の相

若菩薩の聞法信

乃至以一花

乃至一枝を以て供養せば

若有聞是法

若し聞是法

知法常無性

知法常無性

世間相常住

世間相常住

聞是法亦難

聞是法亦難

法の色はあらはしがたし

譬喩品

必當得作佛

猶如火宅

等一大車

悉是吾子

諸苦不因

信解品

無上寶聚

淨佛國土

止宿草庵

報佛之恩

以佛道聲

樹葉華果皆悉具足

藥草喩品

現世安穩

後世善處

常樂我淨

普皆平等

如等正覺

汝等所行是菩薩道

於無量千萬億劫

不可思議

無有魔事

心尚懷憂苦

化城喩品

觀彼久遠

法冥冥於冥

願以此功德普及於一切

以是本因緣今說法華經

化城品
五百弟子品
内秘菩薩行
其不在此會汝當爲宣說
不覺内衣裏
人記品
我願既滿
法師品
法花寂光一
栗和悪辱衣
寂寞無人聲
寶塔品

有七寶塔

移諸天人置於他土

皆在虛空

諸寶樹下

捨頁軌草

[illegible]

[illegible]

提婆品

皆因提婆達多

又閻浮菩提

[illegible]

[illegible]

勸持品

何故憂色

我不愛身命

安樂行品

在於閑處

不可得聞

常有是念

涌出品

我常遊諸國

又少而子老

壽量品

無有生死

[illegible]

常在霊鷲山

[illegible]

壽命無數劫

[illegible]

如醫善方便

[illegible]

得入無上道

[illegible]

分別功德品

清淨之果報

[illegible]

不久治道場

[illegible]

隨喜功德品

如是展轉教

[illegible]

法師功德品

父母所生眼

[illegible]

唯獨自明了

皆与實相不相遠背

是人持此經

不輕品

我深敬汝

避走遠住

神力品

現大神力

即是道場

於我滅度後應受持斯經

囑累品

如世尊勅

各還本土

多寶仏塔還可如故

[illegible]

藥王品

而自燒身

[illegible]

家為第一

[illegible]

[illegible]

如渡得船

[illegible]

[illegible]

於此命終即往安樂世界

[illegible]

[illegible]

廣宣流布

[illegible]

[illegible]

病即消滅

[illegible]

妙音品

衆寶蓮華

[illegible]

不鼓自鳴

[illegible]

観音品

便得離欲

以種々形遊諸國土

施無畏者

心念不空過

陀羅尼品

無諸衰患

羅刹女品

厳王品

願毎敬我如出家作沙門

善知識者

人世変化のくのよ苟凡庶世尊之道をみる
勧發品
成就日法
[illegible]八歳のうちとうのそさく
法のみを仏のみをうふて[illegible]
皆是普賢威神之力
[illegible]
作礼而去
[illegible]
八年間[illegible]
以暮秋初冬之候入二諦一如之記忽詠

四又之拙哥法示三乗之権現利他而
思観自而念朝市之春花勿萎于
風閑仙洞都鄙之秋風莫慢於佛法
王法依此倭國之風俗欲歎淨土之
月論矣

夫當社者得名於春日未代之天照光
於秋心濁世之月和歌者是神國之
風俗也有便于法示忍短者亦人間
之吹虚也無恐于拙涙歴四序号成
意盍一心号述懐為感慈道交者
蓋納受露膽哉其詞云

花　夏月　麻
歌葉　法文　春
夏　秋　冬
雑

花

[illegible]

[illegible]

夏月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法文

[illegible]

春

[illegible]

夏

[illegible]

秋

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]